

(目的) 近年、食生活は多様化し、その変化には著しいものがある。嗜好飲料においても、多種多様の清涼飲料が市場に出まわり、その飲用機会も増加してきており、特に若者達の間で増加が顕著である。そのもとととも、清涼飲料の過剰摂取による健康上の弊害として虫歯・脚気などの疾病がみられるという報告もされている。そこで、これからの若者達の食生活の指導を考えていくために、彼らの清涼飲料の飲用実態を知ることを目的とする。

(方法) 調査対象は神戸市内の中学2年生860名と高校2年生650名で、抽出では中学生は地域性、高校生は学級のランクを考慮して、昭和61年6月30日～7月12日に、質問紙法で実施した。有効回収率は94.2%である。

(結果) 1. よく飲用する季節は「夏」が68.8%と最も多いが、次に「1年中」が29.7%となっている。中学生の地域別では、商業地域において1年中よく飲用する者が顕著である。2. 飲用回数は、夏によく飲用する者の中では「週2～3回」が最も多いが、1年中よく飲用する者の中では「毎日」28.3%、「週4～5回」25.7%、「週2～3回」29.7%で、習慣化した者が半数以上いる。3. 最もよく飲用する種類は炭酸飲料が69.1%と第1位である。4. 飲用理由は「おいしいから」70.8%、「さっぱりかたから」32.6%、「家にあるから」26.9%、「口あたりがよいから」23.0%が主なものである。5. 飲用の機会は「運動の後」67.2%、「友人と遊んでいる時」49.1%、「遠足や行楽で外へ遊びに行っている時」28.3%などが主である。